

関連項目：教育活動プラン①、④

## 「えがおプロジェクト」の推進で人間関係の活性化を図る

### 目的

5つの小学校統合から7年が経った今、本校の児童は、共に伸びようとする姿勢や互いに支え合おうとする支持的な風土が醸成されてきている。さらに、お互いの絆を深め、高め合うための方向目標をもち具体的な活動を通してより絆を実感するためにこのプロジェクトを推進した。

### 内容

#### ● 「あいさつボランティア」の実施



1週間を1クラスの担当期間として毎朝あいさつボランティア活動を行った。いつも7時30分過ぎから靴置き場周辺で15分程度登校してきた児童にあいさつをする活動である。胸にはあいさつボランティア活動中を示すバッジを皆付けている。あいさつする側とされる側が一定期間で交代することで、それぞれの立場を経験し、お互いの心情を推し量る良い機会となった。

#### ● 縦割りグループ「絆」での活動

##### ・「絆」遊び



毎月第3金曜日、縦割りグループ集団である「絆グループ」で遊ぶ機会を設けた。上学年が下学年のペースに合わせて遊びを進めていく姿が見られ、相手の状況に応じた行動をとることが自然にできていた。下学年も上学年を見て、自分のために配慮してくれたり、心配してくれたりしている様子から優しさを感じているようであった。異学年集団で遊びを計画し、計画を実行することでお互いの思いや考えを共有する絶好の機会となった。児童会の企画・運営の質に高まりが見られた実践である。

遊びが始まると、遊びの種類や場所に関係なく子どもたちは遊びに浸り、寒い冬でも汗をかくほど時間を惜しむように時間いっぱい活動していた。児童の満足そうな笑顔が印象的であった。

##### ・「絆」給食



異学年集団でのランチルーム給食「絆給食」を実施した。この実践では、「食」の時間を共有することで、お互いの生活習慣の表出と交流の場になるだけでなく、配膳や片付けをそれぞれの学年の発達段階に合わせて分担することで集団への帰属意識を高めることになった。高学年児童にとっては、「自分がしなければならない。」という責任感を醸成する機会となり、低学年、中学年にとっては「自分にもこんなことができる！」という自信をもつ機会となった。

##### ・ペア読書



毎月1回、水曜日の朝の読書の時間を利用して「ペア読書」の実践をしてきた。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生というペアでの読書活動である。上学年が下学年に読み聞かせをしている場面を多く見かけた。家庭で保護者に読み聞かせをしてもらうのとはまたひと味違っているようである。例えば、写真のように高学年は極々自然に絵本を下学年の目線に下げて朗々と読み聞かせをしている姿がそこにある。高学年にとって低学年の存在は自分を成長させる大切な存在にもなっていたようである。読書を通してお互いに心の交流ができた。

### 成果

以上のような取組をすることで、それぞれの異学年間での信頼感や自己の責任感が高まってきているのを感じた。異学年集団で活動することによりお互いにできないことを補い合う姿も見られるなどの成果が見られた。

今後は、児童にこれらの活動を企画から立案する主体性をどのように育てるか、また、学校で築かれつつある絆を家庭や地域へどうつなぐかが課題である。